

vue.js 関係

laravel だと package.json 内にすでに vue.js
関係の準備ができていたので

npm i

でインストールする。

ライブラリのある場所

public/js/app.js

vue のコンポーネントの場所

resources/js/commponent

コンポーネント内で php を書いたり変数の宣言をしたい場合、`{{ }}`で囲む。
複数の情報を変数に代入したい場合は変数に`:`をつける。

例

```
<p>{{ $drill->problem0 }}</p>
```

```
<p>{{ $drill->problem1 }}</p>
```

```
<p>{{ $drill->problem2 }}</p>
```

を

```
<example-component
```

```
title="{{ __('Practice').'「'. $drill->title.'」' }}"
```

```
:drill="{{ $drill }}"> <<<<====ここ
```

```
</example-component>
```

こんな感じ

laravel-mix コマンド(gulp などのタスクランナーツールと同じ Vue.js->js。Sass->css。などにコンパイルできる。)

何もしてない時は

npm run dev

// 全タスク実行し、出力を圧縮

npm run production

// ファイルの変更を監視し,自動でタスクを実行する。

npm run watch

を使ってコンパイルする。(スクリプト内容をちゃんと読む)

タスクは webpack.mix.js に記述されている。